

来春、九州保健福祉大学は「九州医療科学大学」へ

# 医療系総合大学へ発展

学校法人順正学園(岡山市、加計勇樹理事長)が運営する延岡市の九州保健福祉大学は来年4月、名称を「九州医療科学大学」へ変更します。1999年の開学以来、学部改編を重ねて教育の充実を図り、医療・保健・福祉分野で多様化するニーズに対応できる人材を養成。地域と共に歩む姿勢は開学時から一貫しており、さまざまな地域貢献活動に注力しています。来年で開学25周年を迎えるのを前に、名称変更の狙いや今後の展望について、宮崎日日新聞社の河野誠司社長が、加計理事長に聞きました。

## 特別対談

順正学園  
加計 勇樹 理事長

宮崎日日新聞社  
河野 誠司 社長

### 学生の夢実現を応援

河野 来年で開学25周年を迎えます。これまでの歩みを振り返って、どのような感想をお持ちですか。

加計 延岡市からお話をいただき、公私協力方式で1999年に開学しました。直前に大学敷地内で市民による植樹イベントがあり、小雨の中で3千人を超える方々にツツジを植えていただきました。市民の皆さまからの熱い歓迎を今でも鮮明に覚えています。

河野 1万1千人を超える学生が大学を巣立っています。教育の方針を聞かせてください。

加計 順正学園創立者の故加計勉が掲げた「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念に基づいて、教育を行っています。私が理事長に就任した3年前には、新たにブランドステイトメント(目指すべき大学の姿として)「学生の夢を叶える学園」を掲げました。

立派な人材に育ってほしいと思っています。

河野 来年4月に大学の名称を変更されます。どのような狙いを込めているのでしょうか。

加計 開学当初の2学部の名前を冠した大学名でスタートし、地域の方々に愛していただきました。名称変更は大変悩みましたが、学部改編を経て医療を中心とする大学に成長してきました。

学校法人 順正学園  
建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。

加計

表せる名前に変更し、医療系総合大学として発展、進化させた「九州医療科学大学」となりました。

### 救急救命コース新設

河野 社会のニーズが多様化する中で、教育内容をどのように充実させてきましたか。

加計 目まぐるしい社会の変化に対応するため、学部学科を改編してきました。2015年には、細胞検査士を養成する九州初の学部として、生命医科学部を設置しました。この学部では、臨床検査技師、細胞検査士、臨床工学技士の資格取得が可能です。臨床検査技師、細胞検査士を取得後、もう1年間学ぶことで、臨床工学技士のトリプルライセンスを目指します。

ほかに、県内初の心理系学部となる臨床心理学部、社会人に向けた通信教育部などを開設してきました。これからも時代に合った教育を展開していきます。

### 地域との絆を大切に

河野 幅広い分野で地域貢献に取り組み、地域に欠かせない大学となっています。

加計 開学当初から市民講座「のべおが市民大学院」などを実施し、大学を地域に開放してきました。延岡市と連携して「のべおか子どもセンター」も運営

し、子育て支援の充実を図っています。開学翌年から取り組む外来相談システム「ハロー」も地域貢献活動の一つです。本学の教員(言語聴覚士)が、言葉の発達など住民の相談に応じて支援を実施。学生も支援に関わって相談

者と接する貴重な場となっています。教員の知識やスキルを地域に提供し、学生教育に還元する理想のシステムとなりました。

一方で、延岡商工会議所などでつくる「大学おうえん協議会」からは、いろいろな形で支援をいただいています。

河野 学生が積極的にボランティアなどの活動を行い、地域に活力を与えています。

加計 阪神・淡路大震災をきっかけに、順正学園ボランティアセンターを2001年に立ち上げ、災害時に対応できる態勢を築いてきました。学生は延岡市内で台風被害が出た際に、現地に向いてボランティア活動をしたり、熊本地震被災地支援の募金を行ったり、さまざまな活動を行っていました。

順正学園50周年記念事業として始めた「テリシャスフードキットスクラップ」の取り組みは、県内企業にご協力をいただき、生活困窮世帯に食料を届けています。もう一つの記念事業「ジョイフルキッズクラブ」は、学生ボランティアが中学生の学習をサポートしています。地域で活躍する人材を少しずつ増やしていくことが、地域と大学の大切な絆になると信じています。

企画・制作 宮崎日日新聞社 営業局

